

## 2022年度定時総会開催



(一社)航空貨物運送協会(JAFA)は、6月7日、東京・港区のグランドプリンス高輪で2022年度定時総会を開催しました。総会には、正会員代表者108名(内委任状提出者66名)が出席しました。2021年度事業報告・収支決算及び2022年度事業計画・収支予算など

の議案がすべて承認され、新体制と事業計画が決定されました。

新しく理事として、渡部工次郎(西濃運輸執行役員国際部部長)、中谷智(ベガサスグローバルエクスプレス代表取締役社長)、岡本宏行(郵船ロジスティクス代表取締役副社長)、監事として、

中鼻一博(ケイヒン航空代表取締役社長)の4氏が就任しました。総会後の理事会で、岡本宏行氏が会長に就任しました。

なお、懇親会は、昨年と同じく、コロナウイルス感染症の感染のリスクを避ける目的で中止となりました。



## 岡本新会長 就任挨拶

とぞ、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、  
よろしく願い申し上げます。

2022年度はスタートして2か月ほど経過しました。最近のウクライナ情勢は、ロシア上空を航行していた航空機の飛行ルートの変更等を要するために、わが国を含む東アジアと欧州間のスペース供給の更なる制約要因となる他、エネルギー価格の高騰を通じて貨物の輸送コストを押し上げる要素となっており、今後その影響に注視を要するところと見られます。

また、いわゆる「ポスト・コロナ」の時代におきまして、産業のサプライチェーンの見直し、デジタル化や脱炭素化への社会的要請の高まり等も想定されますので、こうした状況に対応し、必要とされる知見の共有や人材の養成などの備えを着実に進めていくことも求められます。

当協会としては、このような中において、航空貨物輸送の今後のさらなる発展基盤、業界共通のプラットフォーム

構築の観点から、関係省庁のご指導を頂きながら、安全、効率、教育を3本柱として充実した活動を行って参りました。

特に教育面では、安全関係講習会やIATA デイプロマ認定試験の事前講習会や航空保安、航空危険物講習等を含め、年間2600人を超える受講生を対象に講習会を実施しており、業界の良き人材の育成に欠くべからざる役割を果たしてきているものと自負しております。

当協会としては、航空会社、関係業界の皆様方との密接な連携の下に、関係当局のご指導を頂きながら、今後も積極的な取組をして参りたいと考えております。

本日ご来臨の皆様方には、当協会の果たしている役割につきましていっそうのご理解を賜り、ひきつづき変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

有難うございました。

本日は、皆様方には大変お忙しい中、ご出席を賜りまして、誠に有難うございます。

私は、先程開催されました当協会の2022年度の定時総会及びその後の理事会におきまして、鳥居前会長のあとを受けて、会長に選任されました郵船ロジスティクスの岡本でございます。

また、定時総会及び理事会におきましては、役員全員が改選され、新しい体制が決定しました。前期をもってご退任された役員の皆様には、これまでのご尽力に感謝申し上げますとともに、新しく就任された役員の皆様には、何



## 鳥居会長 開会挨拶

〈はじめに〉

今から約2年前、2020年春時点で世界の経済も物流もこれまでに経験することがなかったコロナ禍というパンデミックによる影響に直面することとなりましたが、漸くその回復が図れ出口が近づいてきた感もございます。

この間旅客便ネットワークといういわば「基本インフラ」を失うという厳しい状況の下で、エッセンシャルワークとしての航空物流の維持にご奮闘いただいた会員及び関係者各位のご努力を改めて多と致したいと思います。

昨今のウクライナ情勢のために欧州方面との航空貨物スペース確保にさらに課題が生じ、またエネルギーや原材料、半導体等の価格上昇などによる経済活動下押しのリスクにも目が離せませんが、今後も皆様とともに諸状況を注視し、内外のサプライチェーンの安

定的確保に努めて参りたい所存です。

〈貨物輸送実績の概況〉

ここで、航空貨物輸送実績の概況につきましてご報告申し上げます。

まず輸出については、昨年度1年間(2021年4月~2022年3月)の実績は、対前年度比におきまして件数で13%増の280万2千件、重量で32%増の115万2千トンとなりました。

次に輸入については、同時期の実績は、対前年度におきまして、件数が2%増の213万6千件、重量が24%増の102万4千トンとなりました。

取り扱う貨物実績におきまして、輸出・輸入ともに概ねコロナ感染症流行以前の2018~19年の水準に達して参りました。

一方、国内航空貨物輸送については、同時期の実績は、対前年度におきまして件数が26%減、重量が9%増となりました。

2022年度の定時総会の開会に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、会員の皆さまには、お忙しい中、一般社団法人 航空貨物運送協会の2022年度定時総会にご出席をいただきまして、誠に有難うございます。

また、平素から、当協会に格別のご支援をいただいていることに対しまして、改めて御礼申し上げます。

国内輸送におきましても、コロナ感染症からの確実な回復が待たれる状況でございます。

〈協会の活動状況と課題〉

続きまして、当協会の基本的な活動状況と課題につきましてお話し申し上げます。

当協会は、フォワーダー業界が現在と将来において果たしていくべき社会的役割を踏まえて、会員とともに「安全」「教育訓練」「物流の効率化」を3本柱として積極的に活動していく所存でございます。

航空保安については、国土交通省航空局から航空保安教育訓練支援機関としての認定を受け、RA 事業者である会員の皆様の体制強化に貢献できるように取り組んでおります。また、「成田国際空港、関西国際空港等を発送

地とする貨物に係る爆発物検査装置の購入費用等に係る国庫補助の充実」を求める航空局長あて要望を3月25日に行っております。

航空危険物取扱のリスク管理のため、事業者として行うべき品目確認作業等に引き続き万全を期すとともに、国際ルールや国内法令等に適合した危険物の申告が、荷主サイドにおいて適切に行われるよう関係者と協議・調整を図って参ります。

IATA デイプロマ試験が、2021年5月からオンライン方式に移行を致しました。受講生に新方式への戸惑い等一部みられましたものの、当協会としてはこれまでと同様に事前講習等による受験者の学習支援を行いました。受講実績や合格率等を評価されて、IATA が認める「2022年プレミア・サークル」

10団体の1つに当協会が選定されることとなりました。

これからも、会員のニーズに応じた教育・訓練事業を進めて参ります。

会員の多くが活用されている AEO 制度や NACCS プログラムの運用等における更なる改善に向け、財務省関税局との協議・調整を図ってまいります。

昨年6月に閣議決定された「総合物流施策大綱」の実施にあたり、物流のデジタル化、効率化、強靱化等、同大綱と関連します国等への施策上の諸要望の実現に向けて、引き続き関係機関との対話に努めて参る所存であります。

〈結び〉

本日の総会が実り多いものとなりますよう、皆様のご協力をお願いし、総会冒頭のご挨拶とさせていただきます。

有難うございました。

# 鳥居会長 閉会挨拶

本日は、皆様には一般社団法人 航空貨物運送協会の 2022 年度定時総会にご出席を賜り誠に有難うございました。皆様のご協力により、本定時総会が滞りなく進行致しましたことに心から御礼を申し上げます。

本定時総会におきまして、役員が全員改選され、新しい理事及び監事が選任されました。役員をご退任された皆様には、今日まで当協会の発展に多大のご尽力を頂きまして、心から御礼申

上げますとともに、新しく就任された役員の皆様には、何とぞ、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

我々役員といたしましては、この協会の活動が、多くの会員の皆様の積極的な活動によって支えられている点に思いをいたし、より多くの会員の皆様の声が協会活動に的確に反映できるよう、引き続き努力してまいりたいと考えております。

また、航空貨物フォワーダーの役割をよりよく理解して頂けるように、当業界の重要性について広く一般の皆様にご理解をいただけるよう、積極的な取り組みを行ってまいりたいと考えております。

航空貨物業界にとり、先行き見通しの難しい経営環境が続きますが、会員の皆様のご支援を頂き、この協会がますますしっかりと使命を果たせるよう、努力をしていきたいと存じます。

終わりに、今後の会員各社のご発展をお祈りして、閉会のご挨拶とさせていただきます。有難うございました。

## 協会役員

理事 20 名 / 監事 2 名 (敬称略) (●は新任)

(2022 年 7 月 1 日現在)

協会役職	氏名	会社名	役職
会長 (代表理事)	● 岡本 宏行	郵船ロジスティクス(株)	代表取締役副社長
副会長 (代表理事・総合部会長)	鳥居 伸年	(株)近鉄エクスプレス	代表取締役社長
副会長 (国際部会長)	内田 敏朗	日本通運(株)	取締役
副会長 (国内部会長)	恵谷 洋	ヤマト運輸(株)	専務執行役員
副会長 (通関部会長)	岡藤 正策	(株)阪急阪神エクスプレス	代表取締役会長
専務理事	岡部 直己	(一社) 航空貨物運送協会	専務理事
常務理事	宮内 祥三	(一社) 航空貨物運送協会	常務理事・事務局長
理事	原 学	インターナショナルエクスプレス(株)	代表取締役社長
理事	日向野 裕	NX クーリエサービス(株)	代表取締役社長
理事	根岸 毅	(株)OCS	代表取締役社長
理事	奥田 雅彦	サンキュウエアロジスティクス(株)	代表取締役社長
理事	八嶋 浩一	商船三井ロジスティクス(株)	代表取締役社長
理事	● 渡部工次郎	西濃運輸(株)	執行役員国際部部長
理事	藤松 正樹	セイノースーパーエクスプレス(株)	常務取締役
理事	北村 慎司	西日本鉄道(株)	専務執行役員
理事	桜井 哲男	(株)日新	常務執行役員
理事	黒梅 裕一	(株)日立物流バンテックフォワーディング	代表取締役社長
理事	● 中谷 智	(株)ペガサスグローバルエクスプレス	代表取締役社長
理事	氏原 賢二	名鉄ゴールデン航空(株)	代表取締役社長
理事	小島 朋子	(株)YDH・ジャパン	代表取締役社長
監事	● 中鼻 一博	ケイヒン航空(株)	代表取締役社長
監事	堤 廣	国際空輸(株)	代表取締役社長

# 国土交通省 ご挨拶

公共交通・物流政策審議官 寺田 吉道

一般社団法人航空貨物運送協会及び会員の皆様におかれましては、日頃より国土交通行政に対してご理解及びご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

我が国産業のサプライチェーンのグローバル化が加速する中で、航空貨物輸送は、我が国産業に不可欠な輸送手段として、我が国の経済発展及び国民生活の向上に大きな役割を果たしています。特に、コロナウイルス感染症やウクライナ危機等により海上輸送が逼迫する中、航空貨物輸送の役割がより一層重要になってきております。

その中で、貴協会及び会員の皆様に

おかれましては、我が国にとって不可欠な物流機能を確保するため、大変なご尽力を頂いていることに改めて感謝申し上げます。

こうした状況の中、国土交通省においては、安全はもとより物流の効率化を目指し、機械化・デジタル化やこれらの前提となる物流標準化といった取組を通じて、物流DXを強力に進めてまいります。

また、国際物流については、日本式コールドチェーン物流サービス規格の国際標準化や国際物流システムのシームレス化の推進等を通じて、我が国物

流事業者の海外展開支援に引き続き取り組んでまいります。

上記施策の実施に当たっては、物流事業者や荷主企業、関係団体、行政等の関係者が緊密に連携・協力して対応していくことが不可欠です。貴協会及び会員の皆様におかれましては、安全な航空貨物輸送の確保に向けた取組の継続について、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

貴協会の今後の益々のご発展をお祈り申し上げますとともに、会員企業のご隆盛、ご列席の皆様方のご多幸とご健勝を心より祈念いたします。

# 財務省 ご挨拶

関税局長 阪田 渉

令和4年度定時総会の開催に際し、ご挨拶申し上げます。

一般社団法人航空貨物運送協会及び会員の皆様方には、日頃から関税政策・税関行政に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

税関における厳格な水際取締りは、我が国の良好な治安を維持していく上で重要であることは言うまでもありませんが、他方で日々世界と熾烈な競争をされている産業界や物流業界等、関係業界の皆様と歩調を合わせて、行政も対応していく必要があると考えております。

このような問題意識の下、関係業界と行政の距離をもっと近づけたいという思いから、昨年夏の着任以降、関係業界の皆様との意見交換を充実させるべく取組んでまいりました。

貴協会とは、昨年夏以降3回にわたり意見交換を実施し、率直なご意見・ご要望を頂戴するとともに、新型コロナウイルス感染症やロシア・ウクライナ情勢を受けた航空貨物輸送の現状な

どについてご説明いただきました。今後も引き続き、こうした取組を通じて関係業界と緊密に連携し、税関行政に反映させていきたいと考えております。

貴協会とは、平成4年以来、不正薬物の密輸防止のための協力強化を目的とした覚書を締結させていただいておりますが、平成31年1月には、G20や東京オリンピック・パラリンピック競技大会等の開催を見据え、テロの未然防止等の観点を追加し、内容を拡充した覚書を再度締結させていただきました。

とりわけ、昨年開催されました東京オリンピック・パラリンピック競技大会においては、覚書に基づく密輸情報に関する情報の提供等、多大なるご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。今後も貴協会及び会員の皆様方におかれましては、貨物の内容点検や不審情報の税関への提供にご協力をいただきますようお願いいたします。

近年、越境電子商取引の拡大や輸入

貨物の小口化の進展に伴い、貨物の輸入が急増しており、令和3年の航空貨物の輸入許可件数は前年の約1.3倍となっております。

また、令和3年の全国の税関における不正薬物の押収量は、6年連続1トンを超え、このうち覚醒剤にあっては、1トンに迫る912キログラムとなるなど、深刻な状況が続いております。

こうした状況に対応するため、財務省関税局・税関では、貿易関係者から提出いただいている事前情報や先端技術等を活用することによって、さらなる効果的な取締りと通関の迅速化を図っております。今後も貴協会及び会員の皆様方との緊密な連携の下、率直な意見交換を行いながら、物流を含めた社会経済の変化に対応しつつ、効果的・効率的な取締りや貿易の円滑化を推進していきたいと考えております。

最後に、貴協会及び会員の皆様方の益々のご発展を祈念し、貴協会が定時総会を開催されるに当たってのご挨拶とさせていただきます。

## 新役員 就任挨拶



**渡部 工次郎**  
西濃運輸(株)

この度、新たに JAF A の理事に選任頂きました。西濃運輸(株)の渡部工次郎です。

私は、西濃運輸に入社後、陸上輸送を経験の後、1994 年より航空を含めた業務へ携わって参りました。その間、米国およびカナダに 23 年勤務し、2017 年に日本へ帰国致しました。カナダ勤務中の 2001 年に 911 を経験し、北米が先導する形で、航空貨物輸送の制度が大きく変化することを現地で体験しました。また、当時、エンパイアーステートビルに勤務していた家内は、現地でその惨事を経験しました。そして、2005 年にトロント空港で起きたエールフランス 358 便事故を間近で目撃することも経験致しました。この事故は、エアバス A340 型機が運航中に初めて起こした全損事故でしたが、乗

員乗客全員が生還することが出来、後に「トロントの奇跡」と呼ばれた事故です。

また、2017 年の帰国後の 5 年間も激動の 5 年間であったと言えると思います。史上最高の航空貨物量を 2017 年は記録しましたが、翌年は台風による関西空港連絡橋破損事故が起き、2019 年の年末からはコロナ感染拡大により一部では貨物専用機のみでの航空貨物が輸送される時期を経験することとなりました。コロナ禍もやっと出口が見えるようになって参りましたが、北米で体験した 2 つの体験を踏まえ、航空貨物輸送に欠かすことのできない「安全」を始め、日本の航空貨物業界のために、微力ながら力を尽くして参る所存です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



**中谷 智**  
株ベガスグローバルエクスプレス

この度、JAF A 理事に就任致しましたベガスグローバルエクスプレスの中谷でございます。

私は、34 年間勤務した金融機関から 2 年前に当社株主のカンダホールディングスに転籍後、本年 5 月 25 日に代表取締役役に就任しました。

金融機関から国際物流業界ということで環境や慣習が大きく異なり、戸惑いもございますが、初めての経験に精力的に取り組んでおります。

現在は、長引くコロナ禍の影響に加えてウクライナ問題等の地政学リスクも重なり、円安進行や原油高、また、半導体不足による自動車業界やその他様々なサプライチェーンの停滞等、国際貨物を取り巻く環境は大きく変化しており、先行きが不透明な状況

が続いておりますが、ようやく世の中の動きが活発になりつつあり、期待をしているところでございます。

今回のコロナ禍やウクライナ問題等で改めて感じたことは、今後 DX や IT が進化しても最終的には「物」を運ぶという行為は絶対になくならないということです。国際貨物輸送においても我々はグローバルなエッセンシャルワーカーとして、国際物流を止めないことが重要な責務です。異色ではございますが、金融業界で蓄積した知識経験を活かしながら、JAF A の活動を通じて航空貨物業界が今後も持続的成長を実現し、社会に貢献できるよう業界全体の更なる発展に向けて微力ながら貢献する所存です。何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



**中鼻 一博**  
ケイヒン航空(株)

この度、定時総会において JAF A の監事に就任致しましたケイヒン航空(株)の中鼻一博でございます。

私は、ケイヒン(株)に入社後、国際事業部門の部署に勤めてきて、今年 4 月に新たにケイヒン航空の代表を兼務することとなりました。これまでは海上輸送を取り扱う部門に長く携わってきておりますことから、航空輸送においては知識や経験が足りないところは認めませんが、今後の JAF A 発展のため監事の立場として貢献してまいります。

さて、新型コロナウイルスのパンデミックは、これまで経験したことがないレベルでコンテナ船の海上運賃の高騰やスペース不足を生じさせ、代替輸送手段としての航空輸送利用を大幅に増加させることとなりました。その結果

として、今のグローバル社会において海上輸送や航空輸送が如何に必要不可欠な輸送手段であり、我々の業界はまさに重要なインフラの一つであることを改めて認識できた事象とらえております。

これからの航空業界は、グローバルサプライチェーンに欠かせない強固な物流インフラとして海上輸送と区分けされ、更に発展していけるものと考えます。そのためには、JAF A 活動の 3 本柱である安全・効率・教育に基づき、課題となるカーボンニュートラルへ取り組みや安全輸送のための人材確保や育成などを業界として継続して対応していくことが求められますので、皆様からのご指導、ご協力のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

# 2022年5月、IATAディプロマ認定試験合格者数および2021年度合格者数

2022年5月22～6月1日まで行われましたIATAディプロマ認定試験の結果をご案内いたします。

※5月試験では危険物インシヤルコースの合格率が1月(合格率82.8%)と比較しますと低下しております。試験問題の難易度が高かったと推測しています。

2022年5月	受験予約者	合格者 (pass)	合格率	90点以上の高得点者 (distinction)	高得点での合格者率	欠席 (No show)
基礎コース	103	90	87.4%	29	32.2%	9
危険物インシヤル	49	33	67.3%	19	57.6%	5
危険物リカレント	3	3	100.0%	3	100.0%	0
合計	155	126	81.3%	51	40.5%	14

## 2021年度(2021年5～2022年3月)の年間合格数について

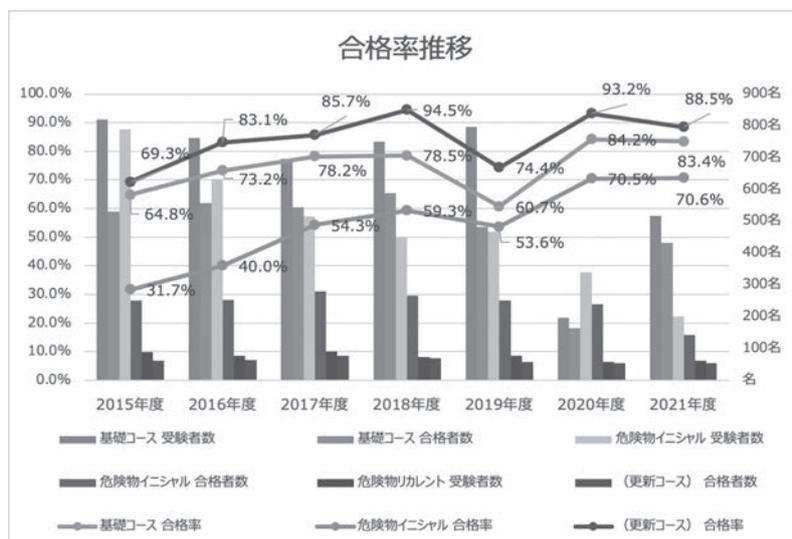
- 2021年度の合格者数は、基礎コース432名、危険物インシヤルコース142名、危険物リカレントコース54名の合計628名の方が見事合格されました。
- 試験については、2021年5月より、基礎コース・危険物コース共に、OERS(Online Exam with Remote Supervision-オンライン試験)に変更となり、2021年度は年7回開催(10月は2021年のみ開催)しました。
- 受験者数は、2020・2021年度ともに新型コロナの影響を受け大幅に減少いたしました。オンライン試験に移行されたことにより、受験環境の整備に若干ハードルが上がったことも影響したと思われます。

- 試験対策として開催しております事前講習会には54%の方がオンラインで参加いただきました。更に基礎コースでは新たに実際の試験形式と同様のe-learningも導入し合格率の向上を目指しました。
- 合格率については、2020年度との比較では大きな変化はございませんでしたが、基礎コースは、83.4%と高い合格率を維持できました。危険物コースは、インシヤルコースが70.6%、リカレントコースが88.5%となりました。2018年以前の合格率は、基礎75%前後、危険物インシヤル55%前後、リカレント85%～95%程度でしたので、基礎と危険物リカレントについては、ここ数年の取組で合格率を大幅に向上させております。

(国際教育委員会)

IATAディプロマ試験の合格率推移

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
基礎コース	受験者数	819名	762名	697名	750名	796名	196名	518名
	合格者数	531名	558名	545名	589名	483名	165名	432名
	合格率	64.8%	73.2%	78.2%	78.5%	60.7%	84.2%	83.4%
危険物インシヤル	受験者数	789名	630名	516名	450名	466名	339名	201名
	合格者数	250名	252名	280名	267名	250名	239名	142名
	合格率	31.7%	40.0%	54.3%	59.3%	53.6%	70.5%	70.6%
危険物リカレント(更新)	受験者数	88名	77名	91名	73名	78名	59名	61名
	合格者数	61名	64名	78名	69名	58名	55名	54名
	合格率	69.3%	83.1%	85.7%	94.5%	74.4%	93.2%	88.5%
合計	受験者数	1696名	1469名	1304名	1273名	1340名	594名	780名
	合格者数	842名	874名	903名	925名	791名	459名	628名
	合格率	49.6%	59.5%	69.2%	72.7%	59.0%	77.3%	80.5%



## 2022年IATAディプロマプレミアサークルメンバーに選定

当協会は、IATA より 2022 年プレミアサークル受賞者に選定されました。

この賞は IATA トレーニングパートナーの表彰プログラムにおいて、470 以上の IATA グローバルトレーニングパートナーの中から、受講者数や試験合格率によって決まるトレーニングの質など、さまざまな指標で評価され、さらに前年と比較した受講者数の増加も加味された上で選定されます。

日本においては、Jafa を含めて 3 つの教育機関が受賞しました。(国際教育委員会)



## SAF (Sustainable Aviation Fuel) セミナーを開催

5 月 25 日に日本航空株式会社 ESG 推進部の亀山和哉様を講師として、SAF (Sustainable Aviation Fuel) のセミナーを開催しました。

初めに気候変動とその要因である二酸化炭素排出に伴う地球温暖化の解決の為のパリ協定が採択され、その枠組みの中で航空分野においても CO<sub>2</sub> 排出量を増加させない為の SAF (持続可能な航空燃料) の現状と課題があげられました。

まず、現状として SAF は廃食用油や食用植物から製造されるため生産量が限られ、また高価になっている事で、新たな技術として廃棄植物や都市ごみからも製造を進めているが、需要には追い付いていない状態である事。

課題としては、環境意識の高い欧米では既に SAF 燃料の大量製造が進んでいるが、絶対量が少なく、その価格も石油由来燃料の 3~5 倍となる事から日本においても国産 SAF の製造開発が急務となっている点が挙げられました。

また、JAL グループとして 2021 年 2 月に SAF 燃料をジェット燃料に混合したフライトを実施、今後も省燃料機材への更新、運航の工夫、排出権クレジットの活用などで、CO<sub>2</sub> 削減を更に進めていく計画が示されました。

このセミナーを聴講して、我々フォワードも荷主への情報宣伝活動による SAF 燃料使用の理解を深めてもらう事が必要と感じた講演でした。(政策委員会)

## 国際航空貨物基礎講習会を開催

2022 年 5 月 18・19 日の 2 日間、2022 年度入社の新入社員を対象に、国際教育委員会主催の国際航空貨物基礎講習会を開催いたしました。

本年は 2 日間で延べ 323 名の方が受講。内、57 名が会場で、266 名がオンラインで参加しました。

今回の講習会では Jafa 各委員会からも講師を派遣いただき、航空貨物概論、輸出入業務、通関業務および危険物取扱い業務に関する講習を 1 日かけて開催しました。

新入社員の方により理解いただくよう、使用するテキスト類も一新し、例年上映しております NAA (成田国際空港) 様よりご提供いただきました成田空港紹介ビデオの上映、全日空様よりご提供いただきました航空機への搭載までの貨物の流れのビデオ、更に航空運賃計算問題やクイズなど、初めてこの業界に就かれた方にも理解しやすいようプログラムを組みました。



2021 年度からは、より深く業務知識を身に付けていただける講習会となるよう春と秋に開催しておりますが、本年 10 月開催の講習会では、航空保安、宅配便、保険、通関業務・危険物取扱い業務の続編を開講予定ですので、引き続き多くの方のご参加をお待ちしております。(国際教育委員会)

# プレス懇談会開催

4月22日 Jafa セミナールームに於いて専門紙記者との 2022 年の懇談会が開催されました。

懇談会には専門紙 9 社から計 11 名の記者が出席、Jafa 側からは会長、副会長、各部長会社担当者および事務局が出席しました。

2022 年度の活動計画について各部長から発表がなされた後、質疑応答を行いました。

出席した各記者からは、今後の荷動きの動向、ディプロマ試験のオンライン化、ロシア・ウクライナ情勢の国際航空輸送への影響や上海のロックダウ

ンの影響等の旬の話題への種々の質問があり、会長、副会長、専務理事が回答しました。

今回の諸般の事情により懇親会は中止となりました。

3 年ぶりの対面形式（一部オンラインでの参加あり）となり、活発な質疑応答がされ、記者の方々との相互理解と交流を深めることができました。

（広報委員会）

## 委員会等活動報告

4月 6日	Jafa-BIAC 共同研究会	2022 年度活動計画の確認、航空危険物実務講習会の開催について
11日	国内業務・教育委員会	基礎講習会・危険物講習会準備、教材 DVD 制作、無申告危険物搭載防止キャンペーンレビュー
11~21日	国際教育委員会	5月セッション IATA ディプロマ認定試験対策事前講習会開催
18日	保安委員会	荷主が作成する安全確認書のフォームについて
20日	広報委員会	Jafa ニュース 122 号編集会議、記者懇談会について
22日	通関業務・情報(合同)委員会	財務省関税局との意見交換会
26日	国際教育委員会	IATA ディプロマ試験について、CBTA センターの認証取得について
5月 9日	広報委員会	Jafa ニュースの Jafa HP への掲載について、30 周年記念冊子の作成方法について
11日	国内業務・教育委員会	教材 DVD 制作ワーキンググループ / 制作会社選定会議
12日	国際業務委員会	危険物取扱いについて
12日	国際業務委員会・CBTA WG	CBTA プログラムおよび CBTA センターについて
16日	政策委員会	「外国競争法と最近の動向」セミナー振り返り、5月26日開催予定の「SAF 燃料」セミナーについて
16日	国際宅配便業務委員会	2022 年度事業計画について
16日	広報委員会	Jafa ニュース第 122 号発行
17日	国内業務・教育委員会	基礎講習会・危険物講習会準備、教材 DVD 制作、無申告危険物水際発見事例の検討
18日	空港対策委員会	東京国際貨物ターミナル (TIACT) 上屋増設部分視察
18~19日	国際教育委員会	2022 年度春期国際航空貨物基礎講習会開催
22~31日	国際教育委員会	2022 年 5 月セッション IATA ディプロマ認定試験開催
23日	国際交流委員会	FIATA HQ Meeting および FAPAA AGM 参加について
25日	政策委員会	Jafa セミナー開催・運営 (SAF 燃料について)
27日	国内業務・教育委員会	国内航空貨物基礎講習会を開催
27日	広報委員会	「Jafa30 年のあゆみ」発行
30日	広報委員会	ホームページの一般サイトにも Jafa ニュースの PDF を公開
6月 7日	政策委員会・広報委員会	定時総会運営
8日	国内業務・教育委員会	教材 DVD 制作ワーキンググループ / 制作会社選定会議
9日	国際業務委員会	国交省主催「国際物流に関する情報共有化会合」について
15~28日	国際教育委員会	7月セッション IATA ディプロマ認定試験対策事前講習会開催
17日	国際業務委員会	国交省主催「国際物流に関する情報共有化会合」オンライン参加
17日	保安委員会	航空保安対策室との意見交換会
24日	広報委員会	Jafa ニュース 123 号への掲載記事、Jafa プロフィールの刷新について
24日	国内業務・教育委員会	基礎講習会反省、危険物講習会準備、教材 DVD 制作、無申告危険物搭載防止への取組検討
29・30日	Jafa-BIAC 共同研究会	第 30 回航空危険物実務講習会 開催・運営
30日	国際交流委員会	FIATA HQ Meeting へオンライン参加